



**道農連第49回定期総会で生産現場に寄り添った  
 農業・農村政策の確立を求める特別決議を採択**

道農連は2月14日、ニューオータニイン札幌で第49回定期総会を開催した。全道の地区市町村組織の代議員ら約80名が参加し、コロナ禍に配慮して Web 配信も行った。総会では、2021年度活動報告及び会計収支決算、2022年度運動方針及び会計予算案を満場の拍手で採択。併せて、「生産現場に寄り添った農業・農村政策の確立を求める特別決議」を採択した。

役員改選では、大久保明義委員長、出嶋辰三副委員長、中原浩一書記長が再任され、増田俊司副委員長が退任して梅田俊則氏が新副委員長に就任した。

**2022年度の執行体制などを決定／第1回執行委員会**

道農連は2月25日、第1回執行委員会を開催し、2022年度の執行体制を決定するとともに、春闘の基本農政対策、業態別対策骨子などについて協議した。

業態別対策委員長には、米・水田農業対策委員長に大久保委員長、畑作・野菜対策委員長に梅田副委員長、酪農・畜産対策委員長に出嶋副委員長が就任した。

このほか、基本農政をめぐるのは、岸田首相が掲げる「新自由主義からの転換」が図られるよう求めるとともに、我が国の食糧主権を守るため、国際貿易交渉における農畜産物の更なる市場開放には断固反対の姿勢を貫くこととした。

あわせて、コロナ禍で落ち込んでいる農畜産物の消費拡大・需要喚起対策の強化や、燃油・生産資材の価格高騰に対する新たな支援など、農業者の経営安定に資する対策を求めていく必要があり、家族経営など多様な農業が将来にわたって持続的に発展できるよう、生産現場に寄り添った政策と真の農政改革の実現に向けて運動を展開することとした。

**第2回地域水田農業のあり方検討委員会を開催**

道農連は2月25日、第2回地域水田農業のあり方検討委員会（委員長：大久保明義米・水田農業対策委員長）を開催した。会議では、農水省とのリモート意見交換の概要を報告するとともに、3月以降各地区（地域）に足を運び、生産現場の声を直接聞く行動を実施することを確認したほか、今後の対応等について議論した。

**2月の活動記録（上記以外）**

- 3日 空知農民連合定期総会
- 4日 全上川農民連盟定期総会
- 8日 道南地区農民連盟定期総会（書面決議）
- 9日 全十勝地区農民連盟定期総会（書面決議）
- 10日 北見地区農民連盟定期総会  
釧根地区農民連盟定期総会  
後志地区農民連盟定期総会
- 15日 水田活用の直接支払交付金の見直しに係る関係機関連絡会議（第2回）
- 17日 SDGs×北海道セミナー2022（オンライン）
- 24日 道農産協会糖分分析用サンプリングのあり方検討作業部会（オンライン）
- 25日 三役会議

**3月の活動予定**

- 1日 水田活用交付金の見直しに係る生産現場の意見交換会（北見）
- 3日 水田活用交付金の見直しに係る生産現場の意見交換会（中空知・南空知）  
道農産協会企画調整部会
- 5日 水田活用交付金の見直しに係る生産現場の意見交換会（十勝）
- 7日 道農業再生協議会第5回水田部会  
北海道の物流の重要性を考えるセミナー
- 9日 水田活用交付金の見直しに係る生産現場の意見交換会（北空知）  
消費税インボイス制度北海道ブロック説明会（オンライン）
- 11日 Jクレジット活用セミナー in 北海道
- 13日 水田活用交付金の見直しに係る生産現場の意見交換会（上川中央・宗谷ブロック）

◎詳しくは、「北海道農村新聞」（年間購読料 1,800 円・税込）をご覧ください。

お申し込み・お問い合わせは、道農連事務局（TEL011-241-5416）まで。

道農連 HP はちら ⇒ <http://donouren.sakura.ne.jp/>

